

平成 20 年 第 37 回発表 演題名「異常音を生じ脱転破損前に再置換を行った京セラ製人工股関節 ABS カップの一例」

金沢大学 整形外科

稲谷弘幸 加畑多文 前田 亨 吉田弘範 楫野良和 富田勝郎

異常音を生じ脱転破損前に再置換を施行した京セラ製人工股関節 ABS カップの一例を経験したので考察を加え報告する。セメントレス ABS HA シェルはセラミック骨頭とセラミックライナーの過度の密着により逸脱することがある。破損症例の 7 割に自覚症状を伴う。ただし自覚症状がないものも 1 割存在する為、注意が必要である。また、症状発現後はほとんどがその後 1 カ月以内に破損すると報告されている。破損後の再置換術はセラミック片が残存し成績不良で、摺動面の選択肢に限られるなどのデメリットがあるため、異常音等の前駆症状があれば早期に再置換術が必要である。(257 字)

厚生連滑川病院整形外科 稲谷 弘幸